

院外広報誌「ふれあいひろば」が新しく生まれ変わりました！

愛仁会リハビリテーション病院 広報誌

あいリハ plus



再びその人らしい生活に

夏号
2024.07

vol.109

特集 リハビリ最前線

vol.1 当院のリハビリテーション

特集

Special feature

リハビリ最前線

リハビリテーションセンター

Vol. 1

当院のリハビリテーション

愛仁会リハビリテーション病院では、「再びその人らしい生活に」を合言葉に、患者さん一人ひとりに寄り添った質の高いリハビリテーションを提供しています。医師、看護師、セラピスト、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士、歯科医師、歯科衛生士などが集結し、各々の専門性をかけ合わせながら、チーム医療に取り組んでいます。

病床数は269床で、回復期リハビリテーション病棟（215床）と障がい者病棟（54床）で構成されています。地域との連携を密に、皆さまに信頼される地域リハビリテーションの要となる病院をめざしています。

回復期リハビリテーション病棟とは

回復期リハビリテーション病棟は、脳血管疾患や大腿骨頸部骨折などの患者さんに対し、ADL(日常生活動作)の向上による寝たきりの防止や家庭復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に行うための病棟です。回復期とは、脳血管障害や骨折などにより急性期病院で手術などの治療を受けた後、症状が安定に向かっている時期（発症から1～2ヶ月後）で、この時期に集中的なリハビリテーションを行うことで、低下した身体機能の回復や日常生活に必要な動作の改善が見込める期間です。回復期リハビリテーション

病棟における入院期間は最大180日（疾患・状態によって異なります）で、リハビリを行う時間は1日最大3時間（「1単位：20分」×9）まで認められています。

当院では、充実したスタッフの配置や高い在宅復帰率などから、最も高い病棟基準である「回復期リハビリテーション病棟入院料1」の認定を受け、365日、安全で質の高いリハビリテーション医療を提供しています。

愛仁会リハビリテーション病院の
ちょっと自慢できるところはココ！

3

つのポイント！

1

日本リハビリテーション
医学会専門医の人数
がすごい！

脳神経外科・脳神経内科・
整形外科や小児科など、
さまざまな専門分野に精通
した日本リハビリテーション
医学会専門医が11人在籍
しています。

※令和6年4月1日現在

2

セラピストの人数
がすごい！

理学療法士104人、作業
療法士81人、言語聴覚士
33人と充実の体制が整って
います。

※令和6年4月1日現在

3

リハビリテーションセンターの
広さがすごい！

総面積約1,300㎡と関西
屈指の広さを有しており、
患者さん一人ひとりの症
状に合わせた豊富なりハビ
リテーションを提供するこ
とができます。



Interview

リハ技術部
山木健司 副部長

365日質の高いリハビリテーション医療を提供

当院には、約200人のセラピストが在籍し、その中には専門資格を有する者も多数含まれ、365日充実した質の高いリハビリテーション医療を提供しています。

質の高いリハビリテーションを提供するためには、チーム医療が欠かせません。当院では、医師や看護師、セラピスト、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士などがチームとなって、患者さんお一人おひとりを担当させていただきます。機能回復や日常生活動作の獲得に向け、患者さんそれぞれに合ったリハビリテーションプログラムを立案・実施することにより、患者さんに寄り添ったリハビリテーション医療を

提供しています。

また、リハビリテーション医療は、入院中だけではなくありません。当院は、退院後のフォローアップ体制も充実しています。当院を退院された後も通院リハビリテーションや訪問リハビリテーションなどを通して、引き続き患者さんのサポートを行っております。

「再びその人らしい生活に」を職員全員の合言葉に、関西圏のリハビリテーション医療をけん引する存在として、より一層の充実強化を図っていきます。

チーム医療を支えるリハ
技術部の科長 みなさんに、
それぞれの科がどのような
取り組みを行っているのか
お聞きしました。

physical
therapist

PT

理学療法科

池上 泰友 科長

理学療法は、座る・立つ・歩くといった基本動作能力の回復を図る治療法で、物理医学的側面と社会復帰を目指すリハビリテーション的側面を持ち合わせています。当院の理学療法士は約100人と多く、切磋琢磨しながら成長し、活気溢れる部署となっています。全国でも先駆的に取り組んできた脳血管や義肢装具に関するセミナーの開催や、外来での心臓リハビリテーションも開設しています。日々進化する理学療法に対応するため、新たな知識の習得や技術向上に努めています。

occupational
therapist

OT

作業療法科

田邊 晃平 科長

作業療法は、「活動」に焦点を当ててリハビリテーションを行います。

「活動」とは人が心身を動かす行為を指します。その人の心身機能だけではなく周囲の環境、使用する道具なども関係してくるので、その調整を行うことも作業療法となります。「人」「物」「環境」のバランスを整え、生活に必要な動作の獲得、楽しみや仕事への参加にも携わり、助力できるようベストを尽くしています。

speech
therapist

ST

言語療法科

西島 浩二 科長

言語療法は、主に脳卒中後の「言語障害」「高次脳機能障害」「摂食嚥下障害」に対する治療を行います。人が生活する中で、「話す」「聞く」「食べる」といったことは自然に行っている行為ですが、それらが困難になるとその後の人生に大きな影響を及ぼします。

私たち言語聴覚士は、その点をしっかりと理解した上で、患者さん一人ひとりに寄り添いながら支援を行っています。

education
training

教育

教育研修科

貞末 仁美 科長

教育研修科の役割は、毎年一定数迎え入れる新入職員を中心に、療法士が医療従事者として、専門職として、最大限の力を発揮できるよう支えることです。当院には、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が約200人所属しています。これは日本のリハビリテーション専門病院の中でも屈指の規模です。私たちは人材育成を通して、患者さんにより良い医療・サービスを提供したいという想いを持って日々努めています。

home
support

在宅

在宅支援科

山口 勝生 科長

在宅支援科では、主に退院後の通院・訪問リハビリテーションを行っています。医療・保健・福祉に関連する機関や院内外の多職種と幅広く連携を取りながら、患者さんが住み慣れた地域で生活できるよう、さまざまなリハビリのバリエーションを通して在宅生活を支援しています。

また2023年に開設された自費リハビリ施設「アールリハビリステーション」と連携を図りながら、脳血管疾患、脊髄損傷の後遺症の方を対象としたリハビリの提供も行っています。

次号のテーマは
「再びその人らしい生活にー入院から退院まで」です。

チーム医療で入院、そして退院後も
トータルに患者さんをサポートします



理学療法科
池上泰友 科長



作業療法科
田邊晃平 科長



リハ技術部
山木健司 副部長



言語療法科
西島浩二 科長



教育研修科
貞末仁美 科長



在宅支援科
山口勝生 科長

より質の高いリハビリテーションを提供するために

私たちが目指すこと。

こんなお悩み ありませんか？



- 食べ物や水などが飲み込みづらくなった
- 食事中に咳き込むようになった
- 食事に時間がかかるようになった
- 食後に痰が増えるようになった



摂食嚥下外来ではこのような症状のある方を対象に、安全に食事をおとりいただくための「食事形態」「姿勢」「摂取方法」などの評価をしています。

リハビリテーション専門医、言語聴覚士、管理栄養士、摂食嚥下障害看護認定看護師、歯科医師、歯科衛生士といった多職種で構成されたチームで嚥下造影検査による評価を行います。

椅子や車いすで2時間ほどの座位が可能なお方であれば受診いただけますので、お気軽にご相談ください。

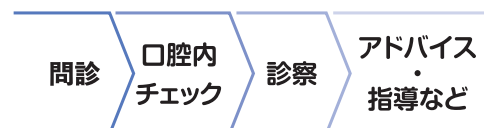
※嚥下造影検査とは、バリウムなどの造影剤を含んだ食事をX線透視化で食べていただき、誤嚥や食物残留の有無などを明らかにする検査です。

診療日時

毎週火曜日（祝日は除く）
13：30～（1日1名）



受診の流れ



摂食嚥下外来に関するご相談・ご予約はこちらまで

愛仁会リハビリテーション病院

072-683-1212

「摂食嚥下外来の予約」
とお伝えください。

ホッとひといき

ドクターダイアリー

院長 越智 文雄 先生

息抜きや趣味についてお話した
だくこのコーナー。第1回目は院長
の越智文雄先生です。



私の趣味は街歩きです。街歩きといっても都会の街ではなく、歴史的な街並みを歩くのが好きです。今年の4月はお花見を兼ねて奈良・吉野に行きました。吉野は2年前にも車で行こうとしたのですが、渋滞で町に入ることができず、麓で引き返しました。今回はそのリベンジで早めに家を出たので、何とか河川敷の臨時駐車場に車を止めることができました。シャトルバスで中千本まで上った後、歩いて上千本まで行き、その後下千本まで降りてきました。

2年越しという感動もありますが、上千本からの桜の眺めは、噂にたがわず素晴らしいものでした。中千本から下千本までは道の両側に飲食店や土産物屋があります。源義経や後醍醐天皇ゆかりの寺や神社があり、歴史に思いをはせながら街歩きを楽しみました。関西は歴史的な町が多いので、次の旅を楽しみにしています。

健康のため、1日1万歩の歩行が推奨されています。皆さんも健康のため、機会を見つけて歩きましょう。

管理栄養士に聞く！

飲み込みにくさを感じた時に行う

栄養量UPのポイント

栄養管理科 | 岡本 泰幸 科長



飲み込みにくさなどを感じると、食事時間が長くなったり、飲み込みにくいものを避けることにより、食事量が確保できず、体重低下＝筋肉量低下に至ることも少なくありません。今回は飲み込みにくさの影響で体重減少となった方を対象に、栄養量を確保するためのポイントをご紹介します。



飲み込みにくい場合の栄養量のUPでは、普段のメニューに何かを混ぜ込むことが簡単な方法となります。ご飯やお粥であれば炊き込みご飯や卵おじやにする、おかずでは絹豆腐や練りゴマ、しらす、ひきわり納豆、枝豆、チーズといった食材をおかずに混ぜるというものです。またマヨネーズやすりおろした長芋などは食材間のつなぎになり、飲み込みやすさにも繋がります。

ほかには摂取回数を増やす方法があります。飲料であれば豆乳や牛乳を使用しココアやミルクティーを作る、間食ならヨーグルトに黒ゴマやきな粉を混ぜたり、エネルギー量の高いプリンを用いるとよいです。

「+α」により効率的に栄養を摂取して、体重の低下を防ぎましょう。

※上記は誤嚥しないことを保証するものではありません。薬の関係や病態から使用できない食材がありますので、かかりつけ医にご相談ください。

新任医師のご紹介

診療部 医員

平賀 千尋



2024年6月より愛仁会リハビリテーション病院に着任いたしました。患者さま、ご家族さまのご希望やご不安に寄り添う医療ができるよう、力を尽くして参ります。以前は高槻病院糖尿病内分泌内科で勤務しており、そちらでの経験を生かして、血糖管理が必要な患者さまにも対応させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

愛仁会ふれあい広場 をご存じですか？

当院3階にある「愛仁会ふれあい広場」は、地域住民の方々や医療・福祉に携わる方が集い、「語らい」や「コミュニケーション」を通し、互いに学べる場、地域の文化が醸成できる場としてご活用いただける多目的スペースです。

新型コロナウイルス感染症の影響により閉鎖しておりましたが、昨年7月より再び一般開放しています。毎月開催するイベントも増え、たくさんの方々が交流を深めています。イベントを開催していない時は休憩スペースとしてご利用いただけます。イベントの開催チラシや病院からのお知らせなども配置しておりますので、ぜひお立ち寄りください。



愛仁会ふれあい広場



イベント風景



当院が提供しているリハビリテーション医療を、写真というツールを用いて紹介する「あいりハFocus」。JR高槻駅との連絡通路に面した当院3階「愛仁会ふれあい広場」の窓ガラスに写真を展示しています。

広場内にも展示しており、どなたでもお気軽にご覧いただけます。この機会にぜひ一度足を運んでみてください。

編集後記

今号より生まれ変わった広報誌「あいりハplus」はいかがでしたか。タイトルだけでなく誌面構成も大幅にリニューアルしました。これからは毎号違った切り口で、当院の強みである「安全で質の高いリハビリテーション」をご紹介します。何より、わかりやすく、親しみが持てる誌面づくりに心掛けてまいりますので、これからもよろしくお願いいたします。

広報室 加藤 友恵

読者アンケートにぜひご協力ください！

愛仁会リハビリテーション病院広報誌「あいりハplus」では、右のQRコードからアンケートを行っています。より読みやすくわかりやすい誌面づくりの参考にさせていただきます。ぜひご協力ください。



愛仁会リハビリテーション病院

三島圏域地域リハビリテーション地域支援センター

〒569-1116 大阪府高槻市白梅町5-7 TEL 072-683-1212

<https://www.ajinkai.or.jp/reha/>



ホームページ



Instagram



フェイスブック